

国際青少年消防競技会規則 2004 年第 6 版

(A) 全般条件

1. 種目、チーム構成、年齢制限、指令の言葉

1.1 種目

1.1.1 国際青少年消防競技会(The International Youth Fire Brigades Competitions)については、規則が CTIF(国際消防救助協会)技術部より発表されている。

1.1.2 国際青少年消防競技会に参加するチームは、適用される競技会規則に従い、障害物消防競技とスポーツ競技を行なわなければならない。

1.2 チーム構成

1.2.1 両種目のチーム構成は 1:8 プラス予備の消防隊員 1 名(合計 10 名)である。

1.3 年齢制限

1.3.1 競技者の年齢は 12-16 歳とする。

1.3.2 国際青少年消防競技会に参加するためには、競技者が 12 歳または 16 歳になる暦年が適用される。競技会登録時に生年月日を含む詳細を報告しなければならない。

1.4 命令および指令の言葉

1.4.1 命令と指令はそれぞれの国の言語により、国内で用いられている通常の形で与えられる。

1.4.2 競技スタートの合図はホイッスル音である。

2. 競技会監督と審判の任務

2.1 競技会監督 (Competition Director)

2.1.1 競技会監督は審判団の長となり、競技会の円滑な進行の責任を負う。通訳は監督のそばについてこれを補助する。

2.1.2 点数について意見が分かれた場合、競技会監督が決定し、その決定は最終的なものとなる。紛争解決にビデオ録画することは認められない。

2.1.3 審判団は青少年消防国際競技会に参加するすべての国から選出された消防隊員で構成される。審判員の人数は登録チーム数によって決まる。審判員は競技会委員会により指名される。

2.1.4 ホスト国が進行担当チームを提供する。このチームは競技会監督の管理下に置かれ、競技場での手配に責任を負う。

2.1.5 機器に技術的欠陥があることがわかった場合、競技会監督が審判の助言に基づいて競技のやり直しを決定することができる。この規定はスポーツ競技にも適用される。競技会監督は審判の助言に基づき、機器の取替えを決定することができる。

2.2 審判の任務

- 2.2.1 競技場には審判員が配置される。審判員は競技開始前にチームをチェックし、スコアシートの入った封筒を手渡し、競技会の円滑な進行を目指す。スコアシートを受け取ったら最終結果を計算し、競技認定証に記入する。
- 2.2.2 障害物消防競技の審判員は規則に従って競技の点数をつけ、スコアシートに結果を記入する。
- 2.2.3 スポーツ競技の審判員は規則に従ってリレーレースの点数をつけ、スコアシートに結果を記入する。
- 2.2.4 審判員は自国のチームの審判をしてはならない。

3. 競技場

3.1 競技場

障害物消防競技とスポーツ競技のトラックは予行演習の前日にセットし、審判員と競技会監督が必要に応じて基本的な標準仕様に変更または追加を行えるようにする。

変更または追加を行った場合、競技会監督または審判員は予行演習開始前にその旨をチームリーダーまたは指導者に伝達しなければならない。

- 3.1.1 障害物消防競技のトラック数は競技チーム数によって決まり、競技会委員会が決定する。障害物消防競技のトラックは長さ75メートルとする。スタートライン前の集合ポイントは幅5メートル(レーンの幅)、奥行きは少なくとも3メートルとする。
- 3.1.2 スポーツ競技のレーンの数は登録チーム数によって決まり、競技会委員会が決定する。リレーレースのトラックは長さ400メートルとする。

(B) 種目の内容

1. 障害物消防競技

1.1 競技トラック

- 1.1.1 トラックセクション1: スタートラインから60メートルマーク(標識)まで。このセクションには、トラックの中央に4つの障害物をレース方向と直角(溝と柵)、および平行(トンネルと平均台)に置く。

1. 溝 幅:1.80メートル、長さ:2メートル、8メートルマークの近く
2. 柵 高さ:0.70メートル、幅:2メートル、23メートルマークの近く
3. くぐり抜けトンネル

長さ:6メートル、幅:0.60メートル、高さ:0.80メートル(吊屋根)、38メートルマークの近く

4. 平均台

長さ:2メートル、地面からの高さ:0.35メートル(上面)、幅:0.20メートル、53メートルマーク近くスタートライン中央に固定された65ミリのC型カップリング(結合金具)を1つ設置する。その左側に45ミリのストラップつき二重巻きホースを4本置く。ホースはスタートラインの前に、カップリング部分が前を向くよう配置する。ホースはホースの幅1本分ずつ間をあける。

- 1.1.2 トラックセクション2: 60メートルマークから65メートルマークまで。10リットルの水が入った手動式消火ポンプ2台を、65メートル地点のレーンの左右の端からそれぞれ1メートル内

側に置く。ポンプに接続された 15 ミリのホースは長さ 3 メートルで、最大直径 4 ミリのノズルがついている。ホースは二重巻きで、ポンプのホースかけにきちんと収納され(ブランチ:ノズル取り付け部分を除き)、ブランチはノズルを前に向けて(的に向けて)ポンプのふたの上に置く。直径 10 センチの穴を開けたターゲットウォール(的の壁)を 65 メートルマークの近くに置く。ターゲットウォールの前には、65 メートルマークから 2 メートル手前に赤い当て木を置く。ターゲットウォールの背後に容量 6 リットル程度の容器を固定する。浮きを使い、容器に 5 リットル水が入ったら、すぐに音声信号と視覚信号が同時に作動するようにする。10 リットルの水が入ったバケツをトラックの左側(および右側)ポンプ近くに配置する。

1.1.3 トラックセクション 3: 65 メートルマークから 70 メートルマークまで。結び目のフレームには以下の 4 つの結び目を表した交換可能な図を配置:

クラブヒッチ(巻き結び)

ハーフヒッチ(半結び)でラインに固定されたノズル

ティンバーヒッチ(ねじ結び)

リーフノット(本結び、こま結び)

長さ 2 メートル、直径 8 ミリのライン 3 本と、直径 12 ミリで袋入りのブランチ固定用標準ライン 1 本、合計 4 本のラインをフレームに吊るし、その前に二重巻き 45 ミリホースに取り付けたブランチを置く。図の下に位置する 4 つの作業台にそれぞれ 6 番、7 番、8 番、および 9 番の番号(スケッチ 1.6 参照)をつける。図は取り替えられるようにしておく。フレームは高さ 1 メートル、幅 2 メートルで、70 メートルマーク地点のトラック右端に設置する。トラックの同じ位置の左端には装備を表す回転式の図、および横に写真がついた装備一式をいれたフレームをセットする。図には以下のものが描かれている:

Dividing breechig(分流継ぎ手*) 1

15 ミリ(C サイズ)ブランチ 1

45 ミリホース 1 本

Collecting breeching(集水継ぎ手*) 1

(*訳者注:"breeching"は水源とホースをつなぐ金具で、1 つの水源から複数のホースをつなぐものを"dividing ~"、複数の水源のものをまとめて 1 本のホースにつなぐものを"collecting ~"と言うようです。日本語訳がわからないので、便宜的に「分流継ぎ手」、「集水継ぎ手」としておきました。)

ホースストラップ 1、becket(ベケット;取手索?) 1、連結キー 1、吸引式ろ過器 1

これら装備アイテムを順に並べ、トラック左端に沿ってフレームの前に置く。写真に該当する装備アイテムを 2 から 5 まで番号が書かれたスペースに置く(スケッチ 1.4 参照)。

1.1.4 トラックセクション 4: 70 メートルマークから 75 メートルマークまで。競技終了時のチームの集合ポイント。

1.2 服装と装備

1.2.1 チームは国の消防隊員の制服(作業用制服)で参加する。手袋とベルトは、全員同じ服装、すなわち同じ柄の手袋、ベルトなどを着用するのであれば認められる。

1.2.2 シューズはチームで決めることができるが、チームのメンバーは全員できる限り同じ色のシ

ューズを着用する。ランニングシューズ(スパイク)とスタッド(びょう)のついたシューズは認められない。

1.2.3 チームは国で使用している柄の消防用ヘルメットを着用する。

1.3 競技のやり方

1.3.1 9名の青少年消防隊員はスタートラインに2列に並んで集合する。チームメンバーは胸と背中によく見えるように1から9までの番号をつける。

1番は白い素材にし、チームリーダーの番号とする。2番から5番までの素材は赤、6番から9番までは黄色とする。メンバーの番号はチームリーダーが決定する。リーダーが「競技に参加するチームです」と言ってメンバーを紹介した後、主審が「スタート」の指令を与える。チームリーダーは「ライト、ライト」の言葉とともにチームを率い、チームはスタートライン前に2列に並ぶ。チームリーダーまたは主審がホイッスルにより「アタック」の命令を出す。ホイッスル音とともに審判のストップウォッチがスタートする。主審が音による合図で電子時計をスタートさせてもよい。

1.3.2 「アタック」命令が出たら、リーダーは障害物にとりかかり、65メートル地点まで進んでターゲットウォールの間立つ。リーダーはその位置から、手動式消火ポンプでターゲットウォールの穴を通して背後に設置された容器めがけて放水する第1チームの作業を見守る。2番から5番までの青少年消防隊員は第2セクションの消火ポンプ目指し、第1セクションに設けられた障害物を番号順に通り返ける(注:リスク評価目的で、競技者はハードルを飛び越える、上に乗る、あるいはまたぐことができる)。

1.3.3 次に6番から9番がホースを引き出して第1セクションの障害物の上、中、または下を通す。6番がまず競技レーンに入り(注:少なくとも片方の足が常にレーン内になければならない)、45ミリホースの1本をとり、これを引き出し(ころがし)てスタートラインに固定されたカップリングにつなぐ。

7番は2番目のホースと最初の(6番の)ホースの片端を持ち、60メートルマークを目指して溝を越えて引っ張る。このとき障害物(溝)は正しく飛び越えなければならないことに注意すること。最初のホースをすべて引き出したら、2番目を引き出して片端を最初のホースにつなぐ。8番もホースを取って溝を正しく飛び越え、7番のホースに到着したら7番が引き出したホースの片端を持ち、60メートルマークを目指して走る。23メートルマークの近くで、引き出しているホースを柵の下に通し、まだ巻かれたままの自分のホースを持って柵を乗り越える。ホースを障害物の反対側に投げてはならない。ホースを引き出し終わったら、自分で持ってきたホースを引き出し、先端をすでに引き出されているほうのホースにつなぐ。

9番もホースを持ち、正しく障害物を乗り越えて8番が引き出したホースの地点まで進む。

その後8番が引き出したホースの先端を持ち、トンネルの中を通してホースを引っ張り、60メートルマークを目指す。ホースをすべて引き出したら、自分で持ってきたホースを引き出し、すでに引き出されているホースの先端とつなぐ。ホースが完全に引き出されるまでホースのストラップを外してはならない。2人の青少年消防隊員が、7/8、8/9、9/6の順番でホー

スをつないだ場合には失敗とはみなされない。ホースをつなぐ前にすべて引き出されていればペナルティはない。6番は、自分のホースを固定されたカップリングにつないだ後、ストラップを持って障害物を正しく乗り越え、9番が引き出したホースに到達する。その後引き出されたホースの先端を持ち、平均台を渡りながら、平均台の右側近くにホースを置いていく。このとき60メートルマークまで正しく渡るものとする。ホースはまっすぐ引っ張り、少なくとも59メートルに達しなければならない。4名の競技者全員が4つの障害物を正しく乗り越え、58メートルマーク近くに置かれたボックスの中にストラップを入れる。6番は、ホースを引き伸ばしてからストラップをボックスに入れても、あるいはストラップをボックスに入れてからホースを引き伸ばしてもペナルティではない。

- 1.3.4 2番と3番は、第1セクションが終わったらトラックの左側に置かれた手動式消火ポンプまで進む。2番はブランチを取って赤のマーカまで進むが、これに触れてはならない。3番はポンプの取っ手を持ってこれ进行操作する。ブランチを持っている2番は、できるだけ速くターゲットウォールの穴を通して5リットルの水を放水する。音声信号と視覚信号で操作終了が指示される。ポンプに入った10リットルの水で作業を完了できなかった場合、3番が近くにある予備の水をポンプに注ぎ足す。3番は2番にブランチを渡してはならない。4番(2)と5番(3)がトラック右側のポンプを使って同じ作業を行う。
- 1.3.5 装備テストの審判は8枚の図から4枚を選んでフレームにセットする。セットが終了したら試合開始前に手信号で主審に合図する。
トラックセクションでの任務が終わったら、2番から5番まではそれぞれ音声と視覚信号を確認してから装備フレーム目指して走り、割り当てられた番号のそばに指定された図に相当するアイテムを置く。装備のアイテムはレーン左端のフレームの前に置く。装備は適切な場所に置き、マットを動かしてはならない(訳者注:原文で"mat"となっていますが、意味がおかしいので、"may"の誤植かも知れません。その場合訳は「動かしてはならない」となります)。その後4名の競技者は70メートルマークを超え、トラックセクション4に集合する。チームリーダーは、2番と3番がポンプ作業を終えてから、彼らとともに前に進むことができる(たとえ4番と5番が先に終わったとしても)。
- 1.3.6 結び目テストの審判は1試合ごとに3枚の交換可能な図を取り替えることができる。7番はホースとブランチの結び目だけを結ぶ。審判は各試合前に、手信号によりそれ以上の変更は行われなことを主審に合図する(手信号の後には、装備のフレームにも結び目のフレームにも変更を加えてはならない)。
- 1.3.7 6番と9番は、ホースを完全に引き出し終えてから70メートルマーク近くの結び目フレームまで進む。ポンプとターゲットウォールが置かれている場所の間のレーン中央を、結び目フレームまで走って進む。フレームには自分の番号の上に、自分がフレーム上で結ばなくてはならない結び目の図が置かれている。結び目は競技規則図1.6に従って行う。クラブヒッチとティンバーヒッチは横木に結ぶ。ブランチとホースを合わせフルヒッチとハーフヒッチで結んだものは、横木にかけず、地面に置く。ラインバッグはラインのノズル側でもホース側でも構わない。ホースの結び目は7番のみが行う。

作業が終わったら、70メートルマークを超え、セクション4に集合する。

1.3.8 すべての作業が終わったら、リーダーを含むチーム全員がゴール地点に向かう。チームが2列に並んで集合したら(スタートラインを向いて)、チームリーダーが右手を挙げ、主審に「競技完了」の合図をする。チームの作業が完了し、全員が集合したことを時計係が記録した時点で、2名の審判が時計を止める。

1.3.9 チームリーダーの任務は競技を監督することだが、競技が進行している間指示を出す権限はない。競技中話すことは禁じられている。競技終了後、チームリーダーはチームを主審に紹介する。

1.4 障害物消防競技の障害物のスケッチ

(すべて単位はセンチメートル) 1.4 障害物消防競技の障害物のスケッチ

(図脚注) (上) 柵 (下) くぐり抜けトンネル

(図脚注) (上) 平均台 (下) 交換可能な図を配置した装備フレーム

単位はすべてセンチメートル

1.4 障害物消防競技の障害物のスケッチ

水の容器、フロート、視覚信号および音声信号を示したターゲットウォール。

単位はすべてセンチメートル

1.4 障害物消防競技の障害物のスケッチ

水の容器、フロート、視覚信号および音声信号を示したターゲットウォール。

(図脚注) (上から) 視覚信号、音声信号、フロート、容器

1.4 障害物消防競技の障害物のスケッチ

1.5 障害物消防競技のトラックのスケッチ

1.6 結び目のスケッチ

1.7 結び目のスケッチ

(図脚注) 交換可能な図のある結び目フレーム

単位はすべてセンチメートル

(図上から)

(左欄上から) セクション4; セクション3; セクション2; セクション1

(右欄上から) 集合ポイント - ゴール; テストフレーム; ターゲットウォール; 赤マーカー; 手動式消火ポンプ; 予備の水; 平均台; くぐり抜けトンネル; 柵; 溝; ホース4本と固定カップリング; 集合ポイント - スタート

クラブヒッチ(巻き結び)

リーフノット(こま結び)

(左)ノズルの下でハーフヒッチ(半結び)によりブランチに結ばれたライン
(右)マーキング;注:これはクラブヒッチではない

ティンバーヒッチ(ねじ結び)

1.7 競技用具と装備

- 1.7.1 ホスト国は 1.4 に定められた障害物を用意し、スケッチ 1.5 に従って競技トラックを作る。
- 1.7.2 障害物消防競技に必要な専門装備はホスト国が提供する。
- 1.7.3 障害物消防競技の練習はホスト国が提供する装備を用いて行う。

1.8 スコアリング

- 1.8.1 競技チームはスターティングポイントとして 100 点をもらう。このスターティングポイントから、小数点一位までで表したゴール時間の秒数、およびペナルティがある場合にはこれが差し引かれる。障害物競技では、ミス 1 回につき差し引かれたポイントは 1 秒に相当する。つまり、ペナルティポイントが 5 点であれば 5 秒分差し引かれる。
- 1.8.2 ペナルティ障害物コースのミス: 10 点。障害物コースセクション 1 では、正しく通過しなかった障害物 1 つにつき、ペナルティポイントが 10 点課せられる。

ホースの完全なねじれ - 5 点

ホースに完全なねじれがあった場合、5 点のペナルティポイントが課せられる。ホースは 1 本ずつ別々に判定されるが、ペナルティは 1 本につき 1 つとされる。

カップリングの外れ - 20 点

障害物を通過した後、カップリングが規則に従って正しく接続されていなかった場合、カップリングの外れと判定される。

セクション 1 で 45 ミリホースのレイアウトが間違っているとき - 10 点

セクション 1 でホースが正しく引き伸ばされていなかった場合、ペナルティが与えられる。ホースは少なくとも 59 メートルマークまで伸びていなければならない。

装備の忘れ - 5 点ヘルメットとホースストラップも装備にカウントされる。ホースストラップをストラップボックスに入れないと、ストラップの置き忘れとしてペナルティを課せられる。

装備フレームのアイテムが間違っている - 10 点

装備を自分の数字と絵に該当する場所に置かなかった競技者はペナルティを与えられる。

結び目の間違い - 10 点

結び目が絵と合っていないかたり、正しく結ばれてなかったりした場合、結び目の間違いとしてペナルティを課せられる。

不正確な作業 - 10 点

競技者が規則に従って正しく作業を行わなかった場合、不正確な作業としてペナルティを与えられる。

別な競技者が作業を行った場合、これは適用されない(ダブルペナルティはなし)

予想外の、あるいは問題のある行為により競技者が間違いをおかした場合、「不正確な作業」のペナルティが与えられる。

特定の競技者に帰することができないカップリングの外れがあった場合、カップリングの外れのペナルティが与えられる。

グループのリーダーが「ゴール」の合図を出すのが早すぎた、あるいは遅すぎた場合、リーダーにペナルティが与えられる。

「不正確な作業」のリストは以上ですべてではない。

競技中話をすること - 1 回につき 10 点

競技中話をした競技者それぞれについて判定される。違反があるたびに審判が指示する。主審がそれぞれの違反を考慮し、判定シートに記入する。

レーンを離れる - 1 回につき 10 点

レーンから両足を踏み出した競技者はペナルティを与えられる。(競技者がいったんレーンに入ったら、作業が完了し、必要に応じて報告を受けてから主審が許可するまではレーンから出てはならない。)

2. スポーツ競技 400 メートルリレー、障害物レース

2.1 リレーコースと障害物の構成

(図脚注左上から時計回り)ハードル;走り高跳びのフレーム;台;ホース 1 本;ブランチ;のぼり壁;dividing breeching(分流継ぎ手);ホース 2 本;台;消火器

バトン受け渡しの標示をセクション 2 の 37.5 メートルマーク、セクション 4 の 125 メートルマーク、セクション 7 の 325 メートルマーク、およびセクション 9 の 365 メートルマーク地点に設置する。

2.1.1 リレーレースのトラックは全長 400 メートルで、9 のセクションに分ける。リレーレースの走路はスタートからゴールまでとする。レーンの幅は最低 1.2 メートルとする。

2.1.2 バトンは直径 45 ミリのブランチである。

2.1.3 障害物の構成

セクション 1: 20 メートルマーク地点に、高さ 2 メートル、幅 1.2 メートル、水平バーが 4 本ついたのぼり壁を設置する。45 ミリのブランチは、進行方向に向かって壁の向こう側の左手に置く。(レーンエッジ標示の内側)

セクション 2: 障害物なしに走るセクション

セクション 3: 70 メートルマークのレーン上に、二重巻きでストラップで固定した 45 ミリのホースを置く。カップリングを前に向ける。ホースから 5 メートル前方に 0.8 メートル×0.8 メートルで高さ 0.03 メートルの安定した木製の台を置く。この台はホースを上に乗せるためのもので、レーン中央に配置する。

セクション 4: 障害物なしに走るセクション

セクション 5: 175 メートルマークの地点に、走り高跳び競技で使われるような幅 1.2 メートルの台を置き、バーの高さを 80 センチにセットする。

セクション 6: 225 メートルマークの地点に、ハードル競技に使用する高さ 0.6 メートルのハードルを置く。

セクション 7: 275メートルマークに重さ6キロの空の消火器を置き、そこから5メートル前方のレーン中央に、0.8メートル×0.8メートルで高さ0.03メートルの木製の台を置く。これは消火器を乗せる台である。

セクション 8: 障害物なしに走るセクション

セクション 9: 380メートルマークの地点に、巻いた45ミリホースを2本用意し、カップリングはついているが、ストラップのない状態で置く。カップリングは前方に向けてそれぞれ上になるよう置く。進行方向に向かって右側に分流継ぎ手を置く。

2.1.4 リレーレースは2つの隣接したレーンで行われる。チームのメンバー9名全員が9セクションのどれかを走り、障害物を乗り越えなければならない。リレーレースの走者は障害物消防競技に参加するメンバーと同じでなければならない。チームリーダーがチームのポジション配分の責任を負う。

2.1.5 競技のポジション

- 1 番: スタートラインの後ろ
- 2 番: 25メートルマーク
- 3 番: 50メートルマーク
- 4 番: 100メートルマーク
- 5 番: 150メートルマーク
- 6 番: 200メートルマーク
- 7 番: 250メートルマーク
- 8 番: 300メートルマーク
- 9 番: 350メートルマーク

ブランチの受け渡しは指定の位置で行わなければならない。セクション 2、4、および 8 では、バトンはセクションの前半で受け渡す。すなわち、セクション 2 - 37.5メートルマーク; セクション 4 - 125メートルマーク; セクション 8 - 325メートルマークまでである。セクション 9 では、バトンは最初の15メートル内(365メートルマークの前)で渡さなければならない。守られない場合、規則 2.4.1が適用され、違反1回ごとに10秒のペナルティが課せられるが、次の走者がブランチを渡される前に走り出してもペナルティはない。ブランチを渡し終えた走者はただちにトラックを離れるが、そのとき隣のレーンの走者を妨害しないようにしなければならない。

2.1.6 1番走者はブランチを持たず、スタートの合図とともに走り出す。他の走者はブランチを渡されてから好きなように持って走ることができるが、口でくわえてはならず、また必ずブランチを持ったまま障害物を越えなければならない(これはセクション 1には適用されない)。

2.2 服装

チームは国の消防服を着用し、しっかりしたシューズをはく。スタッドやスパイクは認められない。

2.3 競技のやり方

2.3.1 リレーレースは以下のように行われる。

セクション 1: 1番走者はスタートの合図とともに走り出す。20メートルマークで水平バーのある壁を乗り越える。3番目と4番目のバーを手で、1番目と2番目のバーを足でさわらなけ

ればならない。これは登るときにも降りるときも同様である。壁を越えたら進行方向に向かって左側に置かれたブランチを拾い上げ、後半を走ってから 2 番走者にブランチを渡す。

セクション 2: 前半 37.5 メートルマークまでの間に 1 番走者は 2 番走者にブランチを渡さなければならない。

セクション 3: 3 番走者は 2 番走者からブランチを受け取り、70 メートルマークに置かれた二重巻きホースを拾い上げ、前方 5 メートルに置かれた台の上に乗せる。ホースは台の端から出てはならない。ストラップの一部が板の端から垂れ下がっていてもペナルティにはならない。この作業が完了したら、3 番走者は 100 メートルマークの先で 4 番走者にブランチを手渡す。

セクション 4: セクション 4 の前半 125 メートルマークの前までに 3 番走者は 4 番走者にブランチを手渡さなければならない。

セクション 5: 5 番走者は 4 番走者からブランチを受け取り、バーを落とさずにバーの下をくぐり抜ける。バーが落ちたら、拾い上げて置き直し、もう一度行うが、レーンから出てはならない。

セクション 6: 6 番走者はブランチを受け取り、ハードルを飛び越える。ハードルが倒れたら起こしてもう一度飛び越えることができるが、レーンから出てはならない。

セクション 7: 7 番走者は、6 番走者からブランチを受け取ったら消火器のところまで走り、拾い上げて標示された場所に置く。7 番走者が 8 番走者にブランチを手渡す前に消火器が倒れたら、置き直すことができる。ただし置き直すことができなかった場合には規則違反とされ、10 秒のペナルティを課せられる。注意: 8 番走者にブランチを渡してから消火器が倒れても、ペナルティはない。

セクション 8: 7 番走者はセクション前半 325 メートルマークの前までに 8 番走者にブランチを渡さなければならない。

セクション 9: 8 番走者は 365 メートルマークの前で 9 番走者にブランチを渡す。9 番走者はホースまで走り、2 本のホースを結合させ、一方の端を分流継ぎ手に接続する。もう一方のホースのあいている端にブランチをつなぐ。カップリングは両方のつまみで結合し、競技中外れてはならない。走者はホースにつないだブランチを持って走り、ゴールラインを超えたら地面に置く。カップリングはゴールラインを超えなければならない。ブランチが外れてはならない。

ひとたびレースが始まったら、ホースとカップリングが何らかのはずみで動いたとしても、9 番走者は 350 メートルマークを離れてこれを直すことはできない。これはペナルティにならない。9 番走者はゴールラインを超えるまでブランチがホースに結合されているようにしなければならない(ブランチはホースにしっかり結合されていることが必要)。

2.3.2 ブランチを口にくわえて運んではならない。手から手へと渡さなければならない。走者が規則に従って障害物を越えられなかった場合、もう一度やり直す権利がある。

2.3.3 セクション 9 の走者がゴールラインを超えたときに競技が終了したとみなされる。

2.3.4 チームリーダーに障害物を割り当てられた走者は、ブランチを手渡す前に規則に従って障

害物を越えなければならない。競技が終了してから消火器とホースに触れてはならない。

2.4 スコアリング

2.4.1 各チームは、平均年齢に応じ、基準タイムと 100 点のポイントを割り当てられる。

合計年齢	平均年齢	基準タイム
112 以下	12	80 秒
113-121	13	77 秒
122-130	14	74 秒
131-139	15	71 秒
140-144	16	68 秒

ペナルティ:

カップリングの外れ、10 点

規則に基づいた障害物不通過、または作業未完了、各 10 秒

基準タイムから、ゴールラインで計測して 1 秒下回るごとに 1 点のポイントを与えられる。

基準タイムを 1 秒上回るごとに 1 点差し引かれる。

正しくない受け渡しを行った場合、10 点差し引かれる。

リレーで両足がレーンから出た場合、障害物を正しく超えなかった、あるいは作業が完了できなかったときと同じに判定され、10 点のペナルティが与えられる。

リレー中に何らかのミスをした場合、審判は手を触れてはならない。その代わりに、彼らは競技終了時に走者を呼んでミスを指摘する。審判は競技者に指示を与えてはならない。

ビデオ録画を決定に対する不服申し立ての証拠とすることは認められない。

2.4.2 400 メートル競技に参加するチームは以下の場合失格となる:

走者が 1 つのセクションを完走しなかった場合

スタートで 3 回フライングした場合

最終走者がゴールラインを超えなかった場合

ブランチがゴールラインを超えなかった場合

ブランチが次ぎの走者に渡らなかった場合

走者がレーンから出て他の走者を妨害した場合

2.4.3 計測タイムは第 1 走者のスタートの合図から最終走者がゴールラインを超えるまでである。タイムは秒数で計測し、100 分の 1 秒までの単位で表す。

(C) 競技の進行と審判

1. 競技への到着と登録

1.1 登録

チームが競技場に到着したら、担当官が青少年消防競技会オフィスに報告し、チームの登録を行う。必要書類をすべて受け取る。

1.2 競技への参加

チームは競技開始予定時間の 30 分前までに時計記録係オフィスに到着しなければならない。

ここで最終的なチームリストを提出し、スコアシートが入った封筒を受け取る。

2. 審判

2.1 障害物消防競技

2.1.1 競技は審判長の監督下で行われる。

2.1.2 審判と時計系の要件：

- (a) スタートとゴール：審判 1 はセクション 1 の溝と柵、および 45 ミリホースの引き出しを監督する。同時に 1 号ストップウォッチを操作する。
- (b) 審判 2 はセクション 1 のくぐり抜けトンネルと平均台、および 45 ミリホースの引き出し、ならびにホースストラップのボックスを監督する。同時に 2 号ストップウォッチを操作する。
- (c) 審判 3 はセクション 2 を監督する。特に手動式消防ポンプの使い方をチェックしてポンプに水が満たされていることを確認し、リーダーが観察ポイントで正しい位置についているか、また競技者 2 および 3 とともにその位置を離れたかどうかをチェックする。
- (d) 審判 4 はセクション 3 の装備テストを監督する。
- (e) 審判 5 はセクション 3 の結び目を監督する。
- (f) 各審判は自分のセクションのみを判定する。主審が全体的な時間を計測し、すべてのセクションを監督する。主審がスコアシートに時間とペナルティを記入する。審判によりスコアに差が出るのを防ぐため、各セクションを担当する審判、およびグループのリーダーと協議の上、スコアを決定する。何らかの装備にミスが疑われる場合、審判はこれに触れてはならない。グループのリーダーにこれを見せ、説明する。電子計時ができる場合には主審がスタートとストップの操作を行う。タイムは秒数で計測し、10 分の 1 秒の単位まで記録する。

2.2 スポーツ競技

2.2.1 各レーンにつき、審判 1 名と時計係 2 名が必要である。

(a) 審判はレーン全体を監督し、スターターとなる。

(b) レーンごとに 2 名の時計係

2.2.2 競技の正式タイムは 2 つのストップウォッチの平均とする。電子計時を用いてもよいが、時計係は必要である。電子計時は 100 分の 1 秒単位まで計測する。

(D) 最終結果と青少年消防競技会バッジ

1. 結果

最終結果では障害物消防レースとリレーレースの両方で獲得したポイントが考慮される。獲得ポイントの合計で結果を決定する。

例：障害物消防レース 900.0 点
プラスリレーレース 90.00 点
合計 990.00 点

引き分けの場合

2 チーム以上が同じ点数になった場合、以下の判定基準をもとに順位を決定する。

1. 障害物消防競技をミスなく完了したこと。
2. 障害物消防競技をミスなくベストタイムで完了したこと。
3. 障害物消防競技を最小ペナルティポイントで完了したこと。

4. リレーレースでベストタイム

以上の判定基準をすべてあてはめても最終結果に差が出なかった場合には引き分けとする。

2. 青少年消防競技会バッジ

失格がなければ、閉会式のときに青少年消防競技会の国際バッジが参加チームに配布される。

(E) 最終条項

以上の規則は 1976 年 5 月 22 日にフランスのムランにおいて CTIF (国際消防救助協会) 青少年消防委員会会議で採択された。

CTIF 常任理事会は 1976 年 6 月 17 日のベルリン会議において上記規則を批准した。その後規則の修正が加えられた。

2004 年第 6 版 CTIF

付則 1 「CTIF」国際青少年消防競技会スコアシート

消防隊青少年消防隊員:

国(国籍):

種目:		ポイント							1000
障害物消防レース		PJ	J1	J2	J3	J4	J5	点数	
正しく通過しなかった障害物	1 回 10 点			J2					
ホースの完全なねじれ	各 5 点								
カップリングの外れ	各 20 点								
第 1 セクションのホースのレイアウトミス	各 10 点								
装備の忘れ	各 5 点								
装備の正しくない配置	各 10 点								
正しくない結び目	各 10 点								
規則違反	各 10 点								
競技中の会話	各 10 点								
時間:	分	秒							
主審:	審判 1:								
種目:リレーレース								点数:100	
合計年齢:	基準タイム:			秒					
レビュー:	実際のタイム:			秒					
規則に従って障害物を越えなかった、または作業を完了しなかった	各 10 点								
規則に従って受け渡しを行わなかった	各 10 点								

主審:

審判 1:

告知

第 17 回青少年消防国際競技会 - ユースキャンプ - キャンプゲーム - 各国のプレゼンテーション

A) 青少年消防競技会の告知

第 17 回青少年消防国際競技会 (IJBF) の告知が CTIF 常任理事会の決定に基づいて作成された。

第 17 回 IJBF は CTIF の IJLK の指揮下で 2008 年 7 月 19 日 (日) から 7 月 26 日 (日) までチェコ共和国のオストラバで開催される。

国の組織委員会が地域組織との協力によりイベントの責任者となる。

IJBF の競技会リーダーであるオーストリアの BR Ignaz MASCHA が CTIF から競技会責任者に任命された。ルクセンブルグの Jos THOLL (国際ユースリーダー委員会議長) がキャンプの管理を担当する。

青少年消防国際競技会に関する競技規則 2004 年第 6 版、およびその付則 (2006 年と 2008 年) には、テクニカルポイントに関する必要情報が示されている。ドイツ版を参考に作成した。

本招待状は、できるだけ多くのグループが参加することを期待して、すべての CTIF 国家消防協会に送られる。

B) 競技会諮問委員会

1. オストラバ地域 / 国内組織委員会

1.1 構成

1.2 議長: Miroslav Stepan、陸軍少将、工学士学位

1.3 副議長: Karel Richter、会長、工学士学位

1.7 CTIF 広報担当: Jan Aulický、学士

1.8 競技会テクニカルマネジメント担当: Tomas Lefner、工学士学位

1.2 タスク

1.2.1 国際組織委員会との連携による競技日時と会場の定義

1.2.2 ソーシャルプログラムの開発と実施

1.2.3 競技の全般的枠組みの組織

1.2.4 参加者と審査員の宿泊と食事

1.2.5 国際組織委員会との連携による競技会場の準備

1.2.6 競技に必要な装備の手配

1.2.7 国際組織委員会との連携による来賓招待

2. CTIF 国際組織委員会

2.1 CTIF 副会長、ユース部門担当、Anton BRANDAUER、オーストリア

2.2 IJLK 議長: Jos THOLL、ルクセンブルグ

2.2 競技司令: BR Ignaz MASCHA、オーストリア

2.3 キャンプ司令: Jos THOLL、ルクセンブルグ

- 2.4 CTIF 国際ユースリーダー委員会
- 2.5 国際競技会管理の組織スタッフ
- 2.6 各国の展示とパフォーマンス、ドイツ
- 2.7 キャンプオリンピック - フィンランド

C) 競技規定

1. 一般規定

- 1.1 第 17 回 IJFB については、青少年消防国際競技会競技規則 2004 年第 6 版、およびその付則 2006 と 2008 が適用される。競技へのエントリーは 1993 年から 1997 年までの間に生まれた子どもに限定される。

競技会は VITKOVICE スタジアムで開催される。

- 1.2 IJFB の競技: 障害物消防コースおよび 400 メートルリレー
- 1.3 チームは子ども 10 人(控えの 1 人を含む)と 2 人の監督者で構成される。混成チーム(男女)も参加できるが、混成チームを分けて順位づけすることはない。1 つの国から 2 チーム参加することができ、トレーナーと通訳合わせて合計 26 人までエントリーできる。これ以上の人員をキャンプに宿泊させることはできない。

Vetter-Cup 勝者の出身国はもう 1 チーム参加させることができる。また Tragwein の現在の勝者ももう 1 チーム参加させることができる。1994 年 3 月 26 日の第 25 回執行委員会の決定に従い、ホスト国(チェコ共和国)は 1 チーム多くエントリーすることができる。

2. 装備

競技チームには、競技規定に従い、国の組織委員会および国際競技会管理部から指定の装備が提供される。

- 2.1 競技参加者は各自個人的装備を持参する責任を負う。国の正式な青少年消防隊員の作業用制服に加え、障害物競技では安全用ヘルメットを着用する。国で通常用いられている作業用制服とはきものを着用すること(スパイクとスタッドは不可)。

3. 命令と指令の言語

- 3.1 命令と指令は各国の言語で与えることができる。障害物消防競技ではスタートの合図用にホイッスルを持参すること。

- 3.2 リレーのスタートはピストルの合図で行う。

4. 練習

- 4.1 参加者全員に同じチャンスを与えるため、各チームは競技前に 2 日間練習することができる。
- 4.2 練習スケジュールは最終告知とともに送付される。どのグループも同じ練習時間を与えられる。

5. 式典

- 5.1 歓迎式典はユースキャンプで開催される。
- 5.2 競技の開会式は Vitkovic スタジアムで開催される。オープニングパレードはチェコ語で表記した参加国名のアルファベット順で行う。

先頭には、各国の代表者が、国旗とホスト国から提供された国名入りプラカードを持って行進する。旗は各国の代表者が持ち、プラカードはホスト国の人員が持つ。各チームは開会式と表彰式に自分たちの旗やペナントを持ち込むことができる。

5.3 表彰式では、各チームは開会式と同じ順で行進する。

6.参加者の登録

6.1 準備に十分な時間が取れるようにするため、2008年8月31日までに同封の登録用紙に記入して返送すること。

国際 CTIF ユースリーダー委員会

情報と書式はオンラインでも提供されている：<https://app.fdisk.at>.

競技会全体に関する全情報、および宿泊関連の情報もオンラインで提供される：

www.ctif2009-ostrava.cz

登録用紙にチームが男性か、女性か、あるいは混成かを明記すること。

6.2 第17回IJFBに登録できるチーム数は1国につき2チームまでである。例外は1.3に規定されている。

男性チームと女性チームが認められる。混成チームでもよい。女性チームが3チーム以上あった場合には、女性部門を分けて順位をつけることになる。

6.2.1 登録用紙をすべて受領した後、参加チームに日時とトラックを指定した競技スケジュールを作成する。スケジュールは登録用紙受領後に送付される。

6.2.2 練習および競技中、参加者は登録パネルに身分証明カードを提示し、集計委員会 A+C に集計カードを提出する。

6.3 第17回IJFBへの登録とともに、参加者はキャンプおよび競技規則に同意したことになる。

7.参加料金

7.1 競技参加の料金(トレーナー、審判、ユースマネージャー、競技者、およびバス運転手)は、2009年7月19日(夕食)から2009年7月26日(朝食)までの競技会期間全体について、1人あたり165ユーロである。

参加料金は2009年5月1日までに払い込まなければならない。後日銀行口座を指定する。通訳者には参加料金がかからない。IJFBに参加するには第2言語としてドイツ語が必要である。

オストラバにはバス運転手用に別に宿泊と食事の用意がある。そのため、165ユーロと2009年5月1日までに上記の銀行口座に振り込むこと。

支払が遅れると、参加者の宿泊が保証されない。

7.2 注意：2009年7月19日より前に到着するグループは書面により現地オーガナイザーに連絡すること。宿泊と食事の料金を支払う必要がある(7.4参照)。

2009年7月26日以降に出発する場合、事前に現地オーガナイザー相談すること。

2009年7月19日(日)到着

2009年7月26日(日)到着

7.3 オストラバ空港および鉄道駅からの往復交通費は現地オーガナイザーが負担するが、事前連絡が必要である。プラハ空港および鉄道駅からの往復交通費は参加グループが負担する。

7.4 2009年7月19日(夕食)以前に到着する、あるいは2009年7月26日(朝食)以後に出発するグループは、食事と宿泊の費用として1日あたり約19.00ユーロを支払う。早期に到着または遅れて出発する場合、2009年3月1日までにその日時を組織委員会に連絡すること。

(組織委員会の住所)

8. 判定パネル

審判団は第17回IJFBにチームを送っている国の消防組織の消防で構成される。

競技会規則に従い、審判員の人数は1国あたり3人とする。

登録は同封の登録用紙を2008年10月31日までに組織委員会に送付することにより行われる。2008年10月17日から19日までの審判員訓練に参加した審判員だけが参加できる。参加者の宿泊費と食費は競技会が近づいてから手配する。

審判員の宿泊費と食費はオーガナイザーが提供する。

指定審判員の参加費は1人あたり165ユーロである。

9. 賞と賞金

第17回IJFBではVetter-Cupとラッペンラント市からの賞が授与される。Vetter-Cupについては全参加チーム合わせて順位を決め、上位3チームが賞金を与えられる。

ラッペンラント市賞は最高女性グループに授与される。

各チームはシルバーメダルをもらい、参加者全員が競技会バッジをもらう。

トレーナー、代表団リーダー、通訳者、審判員、IJLKメンバー、コマンド、および現地オーガナイザーは競技会バッジをもらう。